

**厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策政策研究事業）
分担研究報告書**

病院データベースを活用した 1 型糖尿病症例の抽出研究

研究分担者 西村 理明 東京慈恵会医科大学内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科 准教授
研究協力者 宇都宮一典 東京慈恵会医科大学内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科 教授
研究協力者 川浪 大治 東京慈恵会医科大学内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科 講師

研究要旨

日本における小児期発症 1 型糖尿病の頻度は欧米と比べ著しく低い。しかしながら、小児に関しては児童福祉法に基づいて国が行う小児慢性特定疾患治療研究事業（小慢事業）があり、その実態に関する調査が行われてきた。

一方、成人の 1 型糖尿病の頻度に関しては、欧米においても限られた報告しかなく、我が国におけるその実態はほとんど調査されていない。

そこで、本研究は、毎月 6000 人以上が通院している、東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科の外来通院中の糖尿病患者において、レセプトデータならびに必要なに応じて診療録調査を組み合わせ、通院中の糖尿病患者における 1 型糖尿病患者の頻度を推定すること、さらに 1 型糖尿病患者の発症年齢、コントロール状況、使用インスリンの種類・単位、内服薬併用の有無を調査し、その実態を把握することを目的とする。

また、本研究班で作成した 1 型糖尿病の疫学的診断基準（暫定案）を、慈恵医大コホートに適用して、この診断基準の感度、特異度、陽性的中率を算出するとともに、レセプトデータから効率よく 1 型糖尿病患者を抽出する方策についても検討する。本研究全体から提言された、1 型糖尿病の抽出方法の外的妥当性についても評価する。

A. 研究目的

成人の 1 型糖尿病の頻度に関しては、欧米においても限られた報告しか存在しない。我が国におけるその実態については、ほとんど調査が行われていない。

そこで、本研究は、東京を代表する一大学病院における外来通院中の糖尿病患者において、レセプトデータならびに必要なに応じて診療録調査を組み合わせ、その頻度を明らかにすること、さらには、治療内容並びに血糖コントロール状況を明らかにすることを目的とする。

B. 研究方法

毎月、約 6000 人以上が通院している、東京慈恵会医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科の外来通院中の糖尿病患者において、レセプトデータならびに必要なに応じて診療録調査を組み合わせ、通院中の糖尿病患者における 1 型糖尿病患者の頻度を推定する。さらに 1 型糖尿病患者の発症年齢、コントロール状況、使用インスリンの種類・単位、内服薬併用の有無を調査し、その実態を把握する。1 型糖尿病の疫学的診断基準（暫定案）を、慈恵医大コホートに適用して、

この診断基準の感度、特異度、陽性的中率を算出し、その外的妥当性を評価する。

C. 研究結果

本研究を施行するべく、現在、当大学の倫理委員会に研究計画を提出した。また、2013年1-3月および2014年1-3月に外来に通院した人の匿名化されたデータの抽出を終了した。

D. 考察・結論

我が国における皮膚疾患について、レセプトデータを用いた疫学調査が施行されている実績がある¹⁾。本研究は、これらの報告を参考にしつつ、レセプトデータから、1型糖尿病の頻度ならびに、実態を明らかにし、さらには、効率よく1型糖尿病患者を抽出する方策、その妥当性についても検討

する予定である。

E. 研究発表

- | | |
|---------|----|
| 1. 論文発表 | なし |
| 2. 学会発表 | なし |

F. 知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|-----------|----|
| 1. 特許取得 | なし |
| 2. 実用新案登録 | なし |
| 3. その他 | なし |

G. 参考文献

- 1) 照井 正(日本大学 医学部皮膚科学分野 皮膚科), 中川 秀己, 江藤 隆史, 小澤 明. 健康保険組合レセプト情報を利用した乾癬の実態調査. 臨床医薬 30巻3号, 279-285, 2014.